

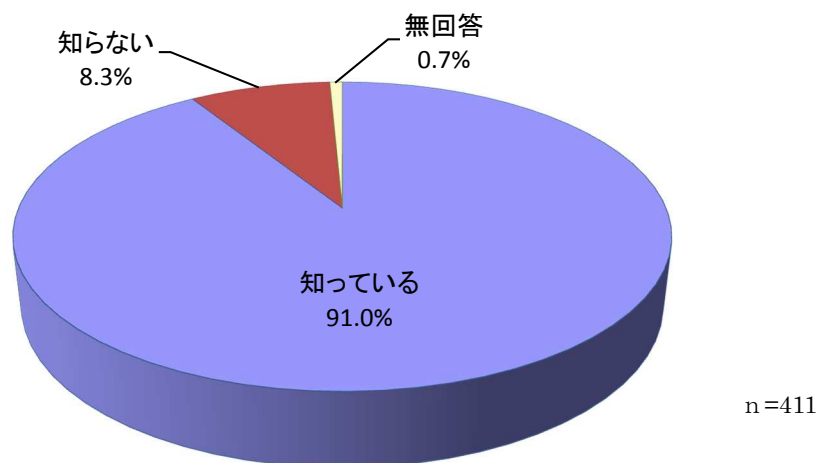
18. 住宅用火災警報器について

(1) 「住宅用火災警報器」設置義務の認知度

◇ 「知っている」が9割超え

問43	全ての住宅等に『住宅用火災警報器』の設置が義務づけられたことを知っていますか。 ※市内のすべての住宅（一般住宅，共同住宅，店舗併用住宅等）に平成21年6月1日から設置が必要です。 (○は1つ)	n=411
1	知っている	91.0%
2	知らない (無回答)	8.3% 0.7%

<図IV-18-1>全体



全ての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを知っているかについては、「知っている」が91.0%で、認知度の高さが見受けられる。(図IV-18-1)

性・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/20歳代>の66.7%を除く全ての年代で8割を超えている。(図IV-18-2)

居住地域別で見ると、「知っている」は<西部地区>で94.7%と最も多くなっているが、全ての地域で8割を超えている。(図IV-18-2)

<図IV-18-2>性・年齢別/居住地域別

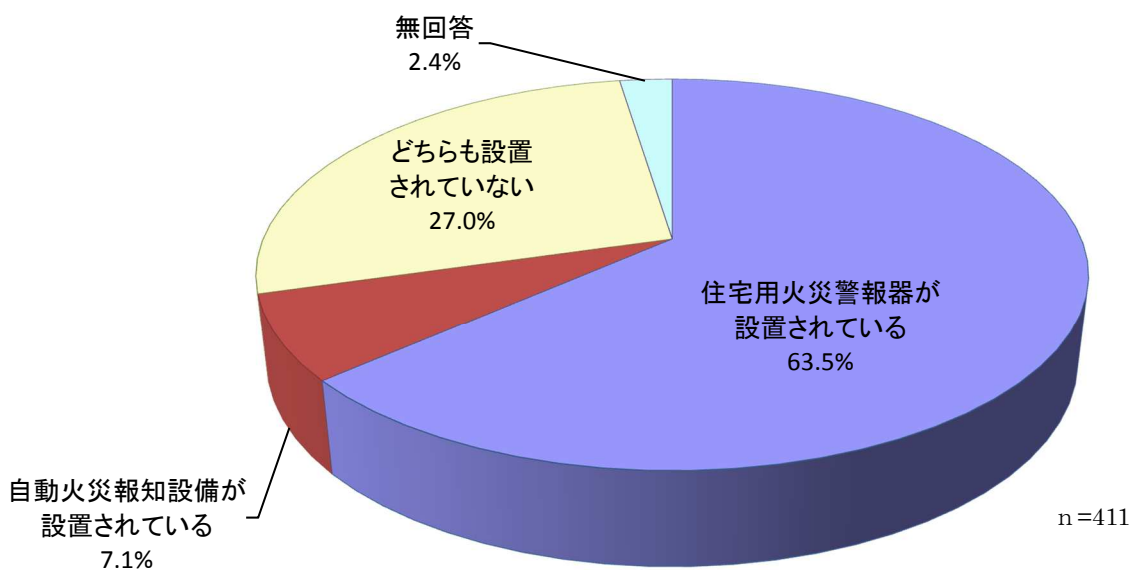


(2) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されているが7割

問4 4	現在、自宅に『住宅用火災警報器または自動火災報知設備』が設置されていますか。	(○は1つ)
		n=411
1	住宅用火災警報器が設置されている	63.5%
2	自動火災報知設備が設置されている	7.1%
3	どちらも設置されていない	27.0%
	(無回答)	2.4%

<図IV-18-3>全体

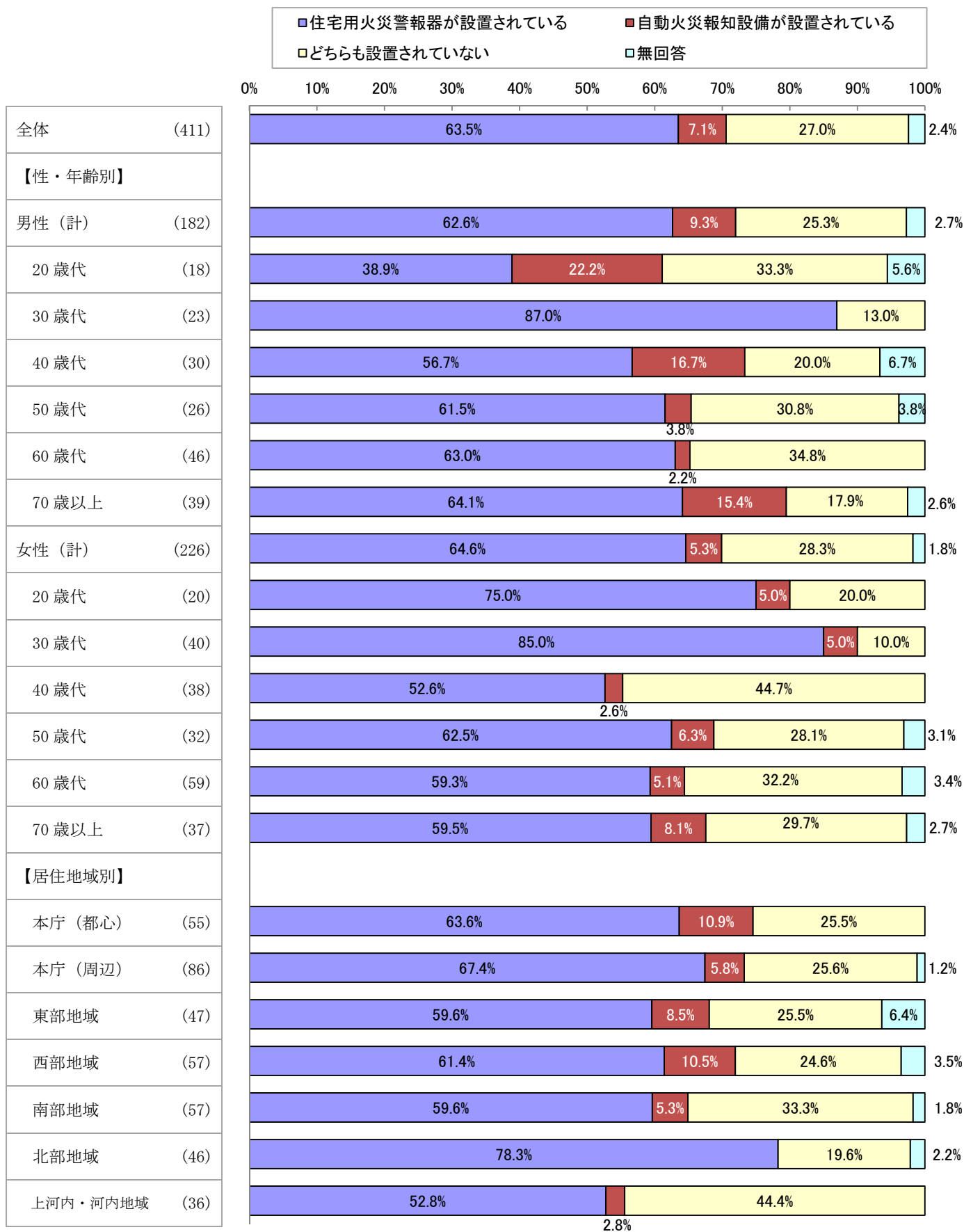


自宅への住宅用火災警報器または自動火災報知設備が設置されているかについては、「住宅用火災警報器が設置されている」(63.5%)と「自動火災報知設備が設置されている」(7.1%)を合わせると約7割であった。(図IV-18-3)

性・年齢別で見ると、「住宅用火災警報器が設置されている」は<男性/30歳代>の87.0%が最も多く、次いで<女性/30歳代>が85.0%であった。「自動火災報知設備が設置されている」は<男性/20歳代>の22.2%が最も多かった。一方、「どちらも設置されていない」は<女性/40歳代>の44.7%が最も多かった。(図IV-18-4)

居住地域別で見ると、「住宅用火災警報器が設置されている」は全ての地域で5割を超えており、<北部地域>では78.3%と最も多かった。「自動火災報知設備が設置されている」は<本庁(都心)>が10.9%、次いで、<西部地域>が10.5%であった。一方、「どちらも設置されていない」は<上河内・河内地域>の44.4%が最も多かった。(図IV-18-4)

<図IV-18-4>性・年齢別/居住地域別



(3) 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由

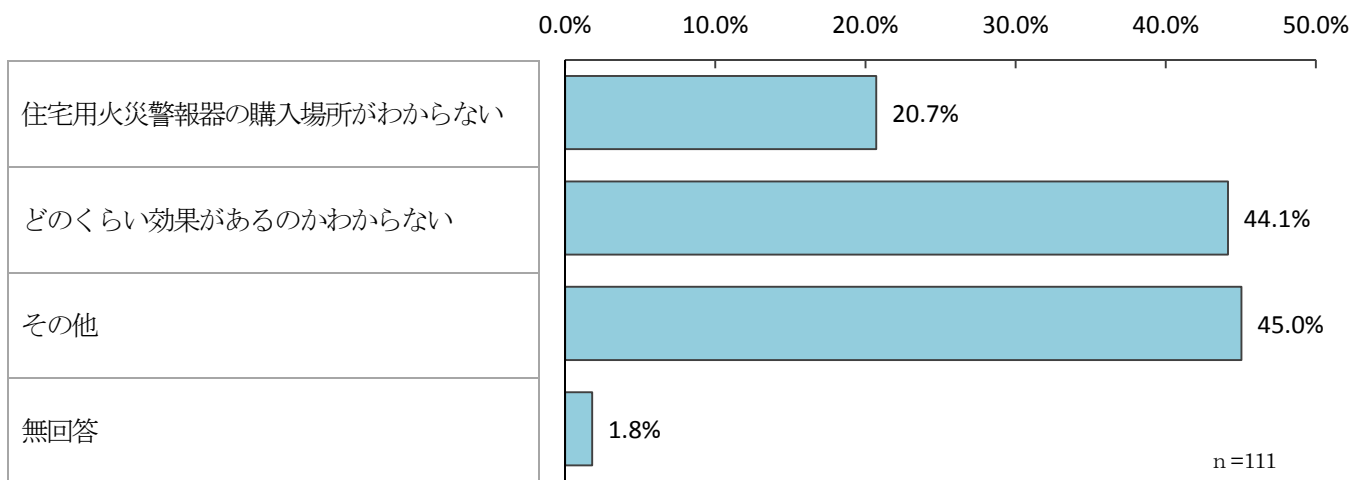
◇ 「どのくらい効果があるのかわからない」が4割半ば

(『住宅用火災警報器等』を設置していない方に)

問45 『住宅用火災警報器等』を設置していない理由は何ですか。 (○はいくつでも) n=111

1	住宅用火災警報器の購入場所がわからない	20.7%
2	どのくらい効果があるのかわからない	44.1%
3	その他	45.0%
	(無回答)	1.8%

<図IV-18-5>全体



住宅用火災警報器等を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が44.1%、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が20.7%であった。

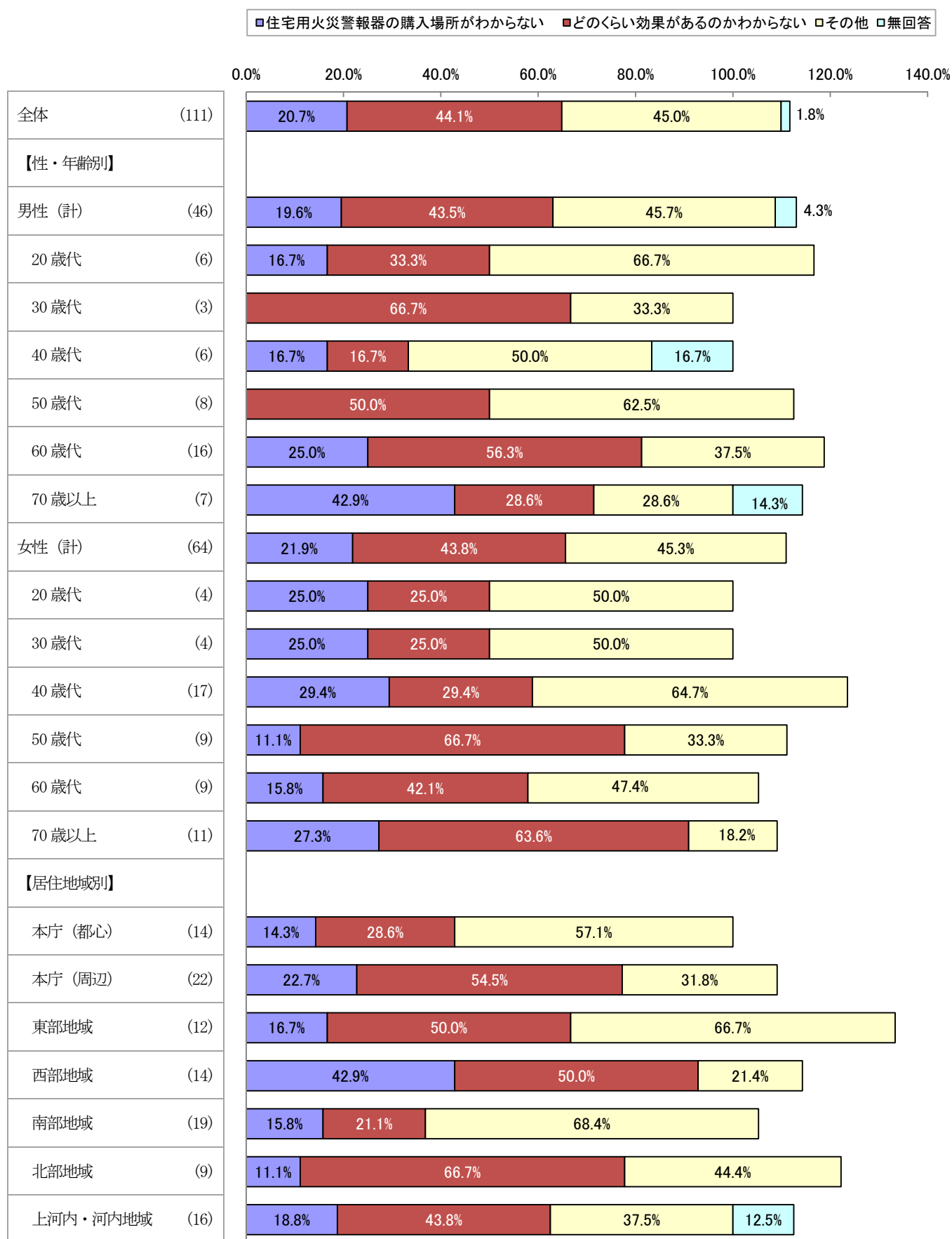
その他として「費用がかかる」、「面倒だから」という消極的な回答や「買ってはあるが設置していない」、「借家の為」、「IHで喫煙者もいない」、「特に必要と思わない」など必要性を感じていない意見もみられた。(図IV-18-5)

性・年齢別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<男性/30歳代><女性/50歳代>の66.7%が最も多く、次いで、<女性/70歳以上>が63.6%であった。

(図IV-18-6)

居住地域別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<北部地域>の66.7%が最も多く、次いで、<本庁(周辺)>の54.5%であった。(図IV-18-6)

<図IV-18-6>性・年齢別/居住地域別



(4) 「住宅用火災警報器等」の点検等実施状況

◇ 「定期的に掃除している」が約2割

問46	(問44で設置されている方に)		
	『住宅用火災警報器等』の点検等を実施していますか。	(○はいくつでも)	n=290
1	ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている ※最新機種 of 多くは、電池寿命10年です。	20.0%	
2	布で拭くなどにより、定期的に掃除している ※ほこりがつくと、火災を感知しにくくなります。	22.4%	
3	していない	53.4%	
	(無回答)	4.1%	

<図IV-18-7>全体



住宅用火災警報器等の点検等の実施については、「実施していない」が 53.4%で最も多く、「布で拭くなどにより、定期的に掃除している」が 22.4%、次いで「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」が 20.0%であった。(図IV-18-7)

性・年齢別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<男性/50歳代>が 52.9%と最も多く、次いで<男性/60歳以上>が 30.0%、<男性/70歳以上>が 29.0%であった。「布で拭くなどにより、定期的に掃除している」は<男性/30歳代>の 40.0%が最も多かった。

(図IV-18-8)

居住地域別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<北部地域>が 30.6%と最も多く、「布で拭くなどにより、定期的に掃除している」は<西部地域>が 34.1%と最も多かった。(図IV-18-8)

<図IV-18-8>性・年齢別/居住地別

ひもを引く又はボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている
 布で拭くなどにより、定期的に清掃している
 していない
 無回答

